八戸再発見

縄文土器 重要文化財
是川中居遺跡（八戸市縄文学習館蔵）

［合掌する土偶］ 重要文化財
風張(1)遺跡 八戸市博物館蔵

遺跡に学ぶ、過去と未来

八戸市には、約500カ所の遺跡があります。
この埋蔵文化財を現代に活かし、未来に伝えていきましょう。

遺跡のはなし

近年、発掘調査のことが毎日のように新聞などで報道されるようになりました。このことは、遺跡に対する関心の高まりを表していると思われますが、そもそも、遺跡とは何でしょうか。

遺跡とは「過去の人間が残した生活の痕跡」のことで、それは地下に埋蔵されているものであり「埋蔵文化財」といわれています。遺跡には、およそ次のような種類があります。集落・貝塚・官衙（古代の役所）・城館などの、居住していたことを示す遺跡。貝塚・耕地（水田・畑）・窯跡・製塩・製鉄などの、生産に係わる遺跡。祭祀・神社・寺院・経塚などの、信仰に係わる遺跡。配石遺構（ストーンサークル）・古墳・墓地などの、埋葬に係わる遺跡。道路・橋・一里塚・関所などの、交通に係わる遺跡などです。

現在、八戸市内にはおよそ500カ所の遺跡があります。調査したことのある遺跡をみると、大部分が集落跡で、その他に貝塚、古墳、城館などがあり、生産や信仰に係わる遺跡は少ないと言えるでしょう。また、旧石器時代から近世まで、八戸の遺跡は各時代にわたり、ほぼ切れ目なく連続しています。特に、青森県内では数少ない、旧石器時代と古墳時代の遺跡の存在が注目されます。

実は、こうした事実が分かってきたのは、大規模開発によるところが大きく、つい最近のことです。そして、新たな発見と引き換えに、一部の貴重な遺跡を除き、多くの遺跡は開発とともに消え去ってきました。しかし、調査により、祖先の歩みのひとつひとつは、写真や図面となって記録保存されています。

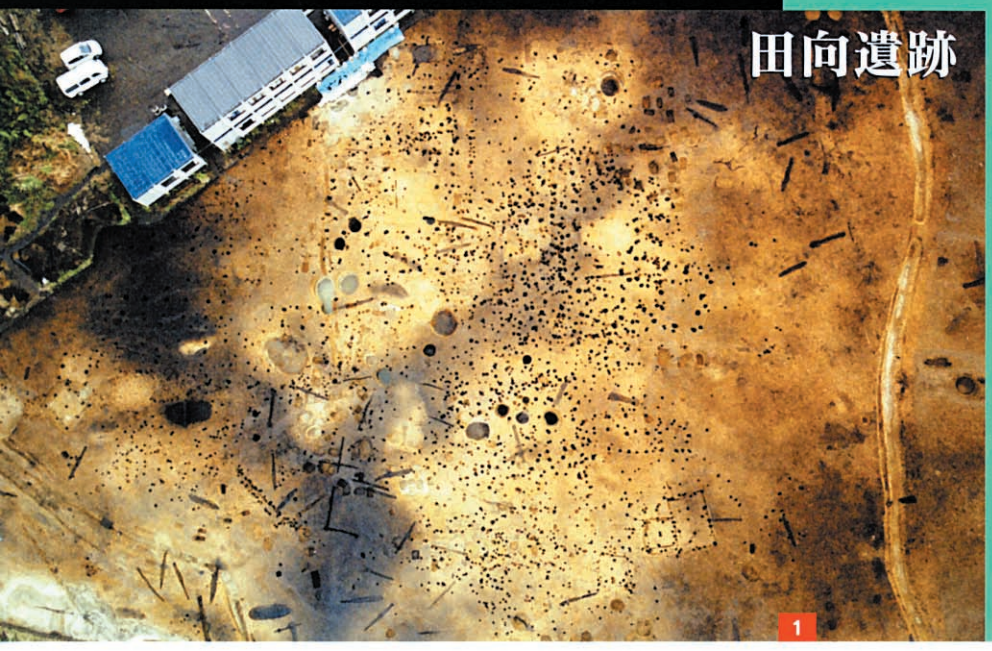
風張(1)遺跡

平成２年度の調査状況。風張(1)遺跡は、縄文時代後期の集落構造を良く示す。広場を中心に、墓(写真の白枠部分)→掘立柱建物跡→竪穴住居跡が環状に配置されている。表紙の「合掌する土偶」が発見された遺跡である。

林ノ前遺跡

平成17年度の調査状況。９世紀後半以降、蝦夷の社会には専業集団が出現する。林ノ前遺跡(10世紀中葉～11世紀前葉)の集落では、馬や牛の家畜を所有し、金、銀、銅の加工や鉄器の生産をしていた。

田向遺跡



平成14年度の調査状況。田向遺跡は縄文時代早期から弥生時代、古代、中世、近世と続く複合遺跡である。写真は、中世の集落(館跡)の区域で、黒く小さな丸い点々が、掘立柱建物の柱の跡である。
田向の中世集落は、文献資料で確認できない。しかし、今も残る大銀杏(写真左上)のそばに吉田氏の館跡があったと伝えられており、調査結果と符号する。そこでは、鉄器の修理を行ったり、アイヌの系譜を引く遺物が墓に残されるなど、興味深い内容が報告されている。

八戸市内には、時代や時期の異なる四つの史跡があります。

縄文時代の幕開けを飾る早期の「長七谷地貝塚」。晩期の東北地方を中心に栄えた亀ヶ岡文化を代表する「是川遺跡」。飛鳥から平安時代にかけて、蝦夷と呼ばれた人々の、有力者を埋葬した「丹後平古墳群」。中世の北奥羽を治めた、根城南部氏の拠点「根城跡」。

これらの史跡は、八戸という土地を舞台にして展開された、歴史の真実の姿を伝えてくれます。

その土地にだけあるもの。自然、文化、食、そして歴史。遺跡は、各地域の固有な歴史を最も具体的に物語ります。数ある遺跡のなかから、地方史のみならず日本史を考える上で重要と評価され、国の史跡に指定されている遺跡は、まさにその代表というべきものです。

骨角製の銛と釣針

長七谷地貝塚全景
白くみえるところが貝層

長七谷地貝塚

長七谷地貝塚は、五戸川下流の右岸、桔梗野工業団地内に所在する縄文時代早期の終わりの頃の貝塚である。海産のハマグリやオオノガイを主体に汽水性のヤマトシジミ、多くの魚類、鳥類、哺乳類の骨が厚く堆積する。多くの漁撈具と骨角製の装飾品などもみられ、当時の発達した漁撈と食生活、さらに自然環境を知ることができる。昭和56年に国史跡として指定され、現在は緑地公園として保存されている。

第15号墳発掘状況

第15号墳から出土した
獅噛式三累環頭大刀柄頭

丹後平古墳群

丹後平古墳群は、八戸ニュータウン内に所在する、飛鳥から平安時代前半まで連続する古墳群である。史跡指定地外も含めると、総数100基を超える規模を有していた。古墳には玉類、刀類、土師器、須恵器などが副葬される。金銅製の「獅噛式三累環頭大刀柄頭」は、国内に類例はなく、朝鮮半島産と考えられている。在地勢力の台頭と、古代蝦夷独自の墓制を示す重要な遺跡であり、現在、緑地公園として現状保存しながら、整備も進められている。平成11年、国史跡指定。

史跡の位置

本丸主殿内の祈祷の間

根城跡

根城跡は、馬淵川右岸の標高約20mの段丘上に所在する。建武元(1334)年、南部師行により築城され、寛永4(1627)年までの約300年間、根城南部氏の居城であった。現在でも、本丸、中館、東善寺館、岡前館、沢里館と呼ばれる郭や堀跡が残っている。国史跡の指定は昭和16年と、八戸市内で最も早い。

史跡の主要部分は、「史跡根城の広場」として公園整備され、平成6年から一般公開している。本丸には、調査成果に基づき、安土桃山時代の城の様子が復原されている。

根城跡本丸

遺跡でみる 八戸の歴史 早わかり年表!!

年代	西暦	BC3万	1万1千	8000	4000	3000	2000	1000	300	100	100
	世紀	紀元前						4世紀	紀元前	紀元後	3世紀
時代区分		旧石器時代	縄文時代 草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	弥生時代		

日本のおもなできごと

- 各地に旧石器人が出現する
- 縄文土器を使い始める
- 竪穴住居が普及し、定住化が進む
- 縄文海進がピークを迎える
- 個性的な土器文化が各地に出現
- 環状列石などの記念物がつくられる
- 西日本の一部に水稲が伝わる
- 東日本に亀ヶ岡文化が繁栄
- 金属器の使用が始まる
- 水稲が各地に広まる
- クニが各地におこる
- 五七 倭の奴国の王が、漢から金印授かる
- 一八九 卑弥呼が邪馬台国の女王となる

原始

八戸のようす

- 二万年前、旧石器人が生活の痕跡を残す
- 爪形文・多縄文土器を使い始める
- 遺跡が増加
- 貝塚が形成され始める
- 円筒土器文化の繁栄
- 集落規模が拡大する
- 大規模集落の出現
- 円筒土器文化から大木系土器文化へ変化
- 集落規模の減少
- 集落の拡散が進む
- 亀ヶ岡文化を支える拠点集落の形成
- 弥生文化の影響を受ける
- 遺跡が一時的に増加する
- 遺跡が減少する

市内最古級の多縄文土器
櫛引遺跡・約11000年前

西日本からもたらされた石斧
荒谷遺跡・約2200年前

八戸を代表する主な遺跡

田向冷水

市内最古の遺物
「ナイフ形石器」
田向冷水遺跡・約20000年前

櫛引
鴨平(2)
日計・白浜
鳥木沢
赤御堂

幾何学的な文様をもつ土器
田面木平(1)遺跡・約7000年前

長七谷地
畑内・重地
蟹沢

バケツ形の円筒土器
重地遺跡・約5100年前

笹ノ沢(3)
松ヶ崎
一王寺(1)

南の影響が色濃い「大木系土器」
松ヶ崎遺跡・約4300年前

潟野
韮窪
丹後谷地
風張(1)
是川中居
松館

漆の塗られた鉢形の木製品
是川中居遺跡・約3000年前

狩猟の様子を表した土器
韮窪遺跡・約3900年前

荒谷
松館・風張(1)
田向・八戸城
根岸山添
田向冷水

土偶のような形をした壺型土器
八戸城跡・約2100年前

近年の目覚しい調査成果により、八戸市では空白といわれた旧石器時代や古墳時代の遺跡が発見され、古代、中央から蝦夷と呼ばれた人々の実像が解明されつつあります。こうした調査成果をもとに、市内の主な遺跡から八戸市の歴史を概観してみます。

300 400 500 600 700 800 900 1000 1100 1200 1300 1400 1500 1600 1700 1800 AD

紀元後

4世紀 5世紀 6世紀 7世紀 8世紀 9世紀 10世紀 11世紀 12世紀 13世紀 14世紀 15世紀 16世紀 17世紀 18世紀 19世紀

古墳時代 飛鳥時代 奈良時代 平安時代 鎌倉時代 南北朝時代 室町時代 戦国時代 安土桃山時代 江戸時代

古代

- 七九四 都を平安京に移す
- 七〇一 律令国家が成立
- ● 律令政治が始まる
- 六四五 大化の改新
- 五七四 聖徳太子が誕生
- ● 仏教が伝来
- 四七八 倭王武が宋に使いを送る
- ● 古墳文化の最盛期
- ● 大和国家の統一が進む
- ● 前方後円墳が造られ始める

中世

- 八〇二 坂上田村麻呂が胆沢城を築き蝦夷経営を進める
- 一〇八三 後三年の役おこる
- 一〇五一 前九年の役おこる
- ● 武士団の成長
- 九三五 平将門の乱おこる
- ● 藤原氏の勢力拡大
- 一一九二 源頼朝が征夷大将軍となり鎌倉幕府を開く
- ● 平氏の台頭、源平争乱
- ● 北条氏による執権政治が始まる
- 一三三三 鎌倉幕府の滅亡
- 一三三八 足利尊氏が征夷大将軍となり室町幕府開く
- 一四六七 応仁の乱おこる
- ● 群雄が割拠し、戦国の世へ
- 一五九〇 豊臣秀吉が全国を統一
- 一六〇〇 関ヶ原の戦いおこる
- 一六〇三 徳川家康が征夷大将軍となり江戸幕府成立

近世

- 一六三九 鎖国が完成
- 一七一六 享保の改革
- 一七八七 寛政の改革
- 一八四一 天保の改革
- 一八六七 大政奉還
- ● 明治維新

- ● 律令政治が始まる
- ● 遺跡が減少する
- ● 末期古墳（蝦夷の墓）が作られ始める
- ● 農耕集落が各地に成立。中央から蝦夷と呼ばれる
- ● 土師器を使用する集落が散在し始める
- ● カマドをもつ竪穴住居が作られ始める
- ● 土師器を使用する
- ● 続縄文土器を使用する

- 八一一 文室綿麻呂が爾薩体（現在の馬淵川流域）・閉伊の蝦夷を討つ
- ● 集落が拡大し、手工業生産が開始される
- ● 環濠集落が出現する
- ● 中国産陶磁器の流入
- ● 南部光行が糠部郡を賜り、入部したという
- 一二二二 光行が櫛引村に社殿（櫛引八幡宮）を造営し、遷宮鎮座したという
- 一三九三 南部政光が甲斐（山梨）の本領を去って根城に移る
- 一三三四 南部師行が糠部郡に入部（根城の築城）
- 一四一一 南部光経が福寿山大慈寺を創建する
- 一四五七 南部政経が田名部出陣
- 一五九二 豊臣秀吉の命により、南部領内四八城のうち、根城など三六城を取り壊す
- 一六二七 根城南部氏が遠野へ移る
- 一六六四 八戸藩二万石誕生
- 一七八三 天明の大飢饉発生
- 一八二八 八戸城の新御殿を造営
- 一八六八 戊辰戦争おこり、八戸藩は奥羽越列藩同盟に加入

- 新井田古館
- 田面木平(1)
- 鹿島沢古墳
- 酒美平・丹後平古墳群
- 櫛引
- 岩ノ沢平
- 牛ヶ沢(4)・殿見
- 大仏館・砂子
- 上七崎・林ノ前
- 大仏
- 根城
- 新井田古館
- 田向
- 八幡
- 八戸城
- 田向
- 黒坂窯跡
- 蟹沢窯跡
- 市子林
- 田向冷水
- 盲堤沢(3)

当時の北海道と共通する「続縄文土器」
盲堤沢(3)遺跡・3～4世紀

剣を模した石製品
田向冷水遺跡・5世紀

韓国から伝わった大刀の柄頭
丹後平古墳群・6～7世紀

律令祭祀に使われた土馬
岩ノ沢平遺跡・9世紀

中国産の白磁皿
大仏遺跡・11世紀

瓦質の風炉
根城跡・15～16世紀

蓬莱鏡
八幡遺跡・17世紀

北東北に特有の錫杖
上七崎遺跡・10世紀

是川中居遺跡の発掘

是川中居遺跡は縄文時代晩期（約3000年前）の遺跡です。遺跡は低湿地と台地部分から構成され、平成11年から始まった発掘調査では南側の低湿地から、幅10m前後、深さ２m前後の沢が2本発見されました。沢には捨て場があり、漆塗りの櫛、弓、腕輪、樹皮製容器、ヤスなど様々な木製品や多量の堅果類が出土しています。捨て場の厚さは最大で1.65mに達し、水に浸かっていたため、植物質遺物は腐らずによく保存され、縄文時代の植物利用を知るうえで重要な発見となりました。木の板を組んだ施設（水さらし場遺構）もみつかり、トチのアク抜きなどのため沢を利用していたこともわかりました。

沢の周囲にはトチノキ、クリ、コナラ亜属やクルミ属などの落葉広葉樹林が広がっていた様子が明らかにされており、捨て場の堅果類はこれらの林で採集されたものと考えられます。
遺跡北側の低湿地からは、漆を濾した布（編布（あんぎん））、漆を貯蔵していた土器など、漆作業に係わる遺物も出土しました。

一方、台地部分には縄文時代後期後半、晩期、弥生時代前期の竪穴住居、墓などの遺構があり、なかでも縄文時代後期後半～晩期の墓に埋葬された赤色顔料の付着した屈葬の人骨は、縄文時代の埋葬習俗の研究にとって欠かせない事例です。

中居遺跡の様子

低湿地の発掘

赤漆塗り木製鉢

赤漆塗りの弓

墓に埋葬された縄文人

～木製品復元製作～

八戸市は、平成１６年から是川中居遺跡（約3,000年前）出土木製品の復元製作を行っています。復元品は、出土品と同じ材質、同じ大きさで製作しています。漆製品は、縄文時代と同じ塗り方（回数等）で行い、上塗り（ベンガラ漆）に関しては、現代の浄法寺（じょうぼうじ）塗り・安比（あっぴ）塗りを参考にしています。

製作：岩手県八幡平市安代漆工技術研究センター

漆塗り木製容器

《漆塗り木製容器》

トチノキの丸太を切断し、大まかに方形に手斧（ちょうな）を使って成形し、器の形に削り出します。そして軽石等で仕上げして、文様を彫り込んで容器の完成です。

漆塗り作業は、炭粉漆、精製漆（スグロメ）、ベンガラ漆を塗りました。

漆塗り樹皮製容器

《漆塗り樹皮製容器》

６月中旬、ケヤキの樹皮を剥ぎ取り、その後表皮も削り取り、樹皮の裏側を表にして乾燥させました。側板、底板、蓋板を麻糸を使って縫い合わせ、円筒形の容器の完成です。

漆塗り作業は、炭粉漆、精製漆を塗り、ベンガラ漆で文様を描きました。

籃胎漆器

《籃胎漆器（らんたいしっき）》

竹をナタで四分割し、幅を約５㎜にそろえ、底を編みます。次に底の縦芯の幅をさらに1/2に裂き、横芯をまわして胴部を網代編みし、口縁に芯を通し巻き上げてカゴの完成です。

そして木固め（生漆）をし、下地（生漆＋トノコ）を施し、ベンガラ漆を塗りました。

是川縄文の里整備事業

是川遺跡は、新井田川沿いにある面積約24.5haの縄文時代の遺跡です。この遺跡は中居遺跡（縄文時代晩期）、一王寺遺跡（縄文時代前期・中期）、堀田遺跡（縄文時代中期・弥生時代）の三遺跡で構成されています。

是川遺跡は、大正9年に地元の泉山岩次郎、斐次郎両氏により発掘が行われました。中居遺跡の泥炭層からは、赤漆塗りの弓、櫛、藍胎漆器など工芸的に優れた数多くの木製品や、トチ、クルミなど植物食料が発見され、是川遺跡の価値を広く知らせることになりました。

昭和32年国の史跡に、昭和37年には出土品のうち特に優れた633点が国の重要文化財に指定されました。

また、平成11年度から八戸市が行った中居遺跡の発掘調査においても、多量の漆塗りの木製品など、学術的価値の高い資料が発見され、是川遺跡の重要性が改めて確認されています。

是川縄文の里整備事業は、是川遺跡の保存・活用を図るために、これらの発掘調査や遺跡の景観を生かして遺跡の復元・整備を行う事業です。

現在、仮称是川縄文館（埋蔵文化財センター併設）の建設や史跡整備のための用地買上げのほか、縄文漆器の復元製作や情報発信のための是川縄文シンポジウム、是川遺跡パネル展などを実施しています。

2006縄文シンポジウム

是川遺跡パネル展

八戸市教育委員会
発行　2007年3月23日
〒031-8686
青森県八戸市内丸1-1-1
文化課
TEL:0178-43-2111 内線469
http://www.city.hachinohe.aomori.jp/
印刷　（株）文展美術印刷
TEL:0178-28-7500

このパンフレットの刊行は、平成18年度埋蔵文化財保存活用整備事業による。